

JASIS 関西 2023 見聞録

(Japan Analytical & Scientific Instruments Show)

2023年2月1日(水)~2月3日(金)の日程で、JASIS 関西 2023 がグランキューブ大阪(大阪市北区中之島)で開催されました(写真1)。JASIS (=Japan Analytical & Scientific Instruments Show)とは、一般社団法人日本分析機器工業会と一般社団法人日本科学機器協会が共同で開催している分析・科学機器に関する展示会のことで、例年9月(2020, 2021年は11月に開催)に千葉県幕張メッセで開催されています。幕張メッセでの開催では来場者の勤務先の約8割が関東周辺で占められるため、関東まで足を運べない分析機器ユーザーの要望に応える形で2019年にJASIS 関西が大阪で初めて催され、大変な活況を呈しました。以降、2年に一度のペースでJASIS 関西の実施が予定されていましたが、折しも2020年からの新型コロナウイルスの蔓延により、2021年の開催は見送られました。したがって、今回が4年ぶりの関西におけるJASISの開催となり、最先端の科学・分析システム&ソリューションが大阪で一堂に会しました。

今回の取材は、中日にあたる2日の午後にお伺いしました。会場は、3階(展示会場)と10階(セミナー会場)に分かれていましたが、その間を複数台のエレベーターが高速で移動して繋いでいるので、特に不便は感じませんでした。10階の事務局本部を訪問し、JASIS 委員会委員長の生野胡様、JASIS 委員会副委員長(JASIS 関西担当)の杉田隆通様をはじめ、事務局長の若尾豪様からJASIS 関西 2023の概要や特徴を伺いました。セミナー会場におきましては、出展社によるセミナー「新技術説明会」の他、主催者による特別企画「トピックスセ



写真1 グランキューブ大阪



写真2 新技術説明会の会場外の様子

ミナー」が企画されました。新技術説明会では、出展社21社による62タイトルが用意され、最新の技術から機器分析に関するノウハウまで幅広い内容で講演が行われました(写真2)。トピックスセミナーはJASIS 関西 2019では実施されなかった試みであり、分析・科学機器業界注目のトピックスについて、専門家や有識者が「現在社会に求められている様々な課題解決やヒント」につながる講演・解説を行いました。関西に関係するトピックスとして、「閉鎖海域の環境を守る」や「バイオ医薬の最前線」などの講演が行われ、大変好評を博しました(写真3)。聞くところによると、JASIS 関西に限って出展される企業も多数あったようで、関西圏に特化した業種による科学・分析機器展示会としての様相も呈していたように思いました。来場者も近畿地方からが最も多く、今回初めてJASISの展示会に参加された方も少なくなかったそうなので、関西圏以外の出展各社にとっては新たな顧客情報を取得できる良い機会となったことと思います。



写真3 トピックスセミナーの会場内の様子

展示会場としては、グランキューブ大阪の3階イベントホール全体（約2600m²）が使用されました。出展小間数100社179小間で、これはJASIS関西2019（出展小間数93社179小間）と同規模でした。来場者については、3日間合計で3,209名（期間中1回のカウント）となりました。内訳を見ますと、1日が1,001人、2日が1,025人、3日が1,183人でした。JASIS関西2019では3日間合計の来場者が4,038名であったため、前開催との比較では若干のマイナスとなりましたが、コロナ禍前と比較した場合にはほとんどの展示会において来場者が大幅なマイナスとなっていることから（JASIS2022は、コロナ禍前のJASISと比較して半数程度）、健闘の部類に入ると考えられます。実際に、筆者らが展示会場を見学した際には、多くのブースで人だかりができており、大変活気に満ちていました（写真4）。一部のブースにおきましては、幣誌別刷りも展示されていました（写真5）。幣誌の技術紹介記事をこのように自社製品のアピールとして活用していただけると本誌としても大変有り難いです。会場後方には、アンケート記入すると空くじなしで豪華景品（商品券、図書カード

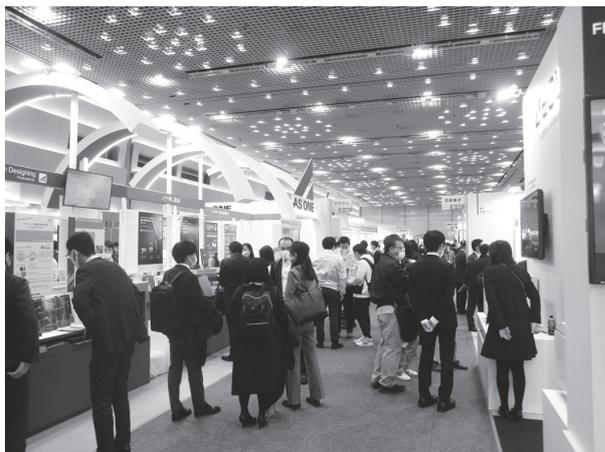


写真4 展示会場の様子



写真5 展示会場で見られた幣誌別刷り



写真6 抽選コーナーの様子

など）が当たる抽選コーナーが用意されており、筆者らもチャレンジしてみましたが（写真6）、残念ながら豪華景品を当てることは叶いませんでした。また来場特典として、科学・分析機器総覧2023のDVDを入手しました。これには約310社2,900製品の科学・分析機器が収録されており、機器の購入品リストを作成する際には重用すると思います。

今回のJASIS関西は、当初の開催サイクルを踏まえると大阪での国際博覧会の開催年と重なることも考えられ、もしそうなればPacifichemも予定される年でもあるので、賑やかな年になるかもしれません。また本年9月6日（水）～9月8日（金）には、JASIS2023が幕張メッセで開催されます。今年のコンセプトは、「come touch JASIS」となっています。近年頻繁に催されているオンライン展示会ではできない、技術員から直接説明を聞くことや実機に触れてデモンストレーションを体験することなどといったJASISが本来有している強みをより活かしていくとのことでした。2023年5月から新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることが決定されたこともあり、ぜひ会場までお立ち寄りいただき、対面にて最先端の科学・分析機器を体感していただければと思います。

最後に、大変お忙しい中取材を引き受けていただき、本稿執筆にも多大なご協力を賜りましたJASIS委員会および事務局の皆様、運営に携わられた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

和歌山大学システム工学部 中原 佳夫
産業技術総合研究所 津越 敬寿